第７７章　クリスマス

休日としてのクリスマス――「クリスマスがやってきます。」というのは、世界じゅう東から西へ、北から南へとひびきわたることばである。青年にとっても、またおとなにも老人にさえも、クリスマスは一般的な祝賀の時、大きな喜びの日である。しかし、それほど人の注意をひかせるようなクリスマスとは、いったいどんなものであろうか。‥‥

１２月２５日はイエス・キリストの誕生日であると考えられており、その日を守ることは習慣となり、広く世間に行われている。しかしながら、救い主のほんとうの誕生日を私たちが守っているのだという確実性は、どこにもないのである。歴史には、このことが確かであるという保証は与えられていない。聖書にも、正確な時日を示してない。神が私たちの救済のために、このことが重要な知識であるとお考えになったのであるならば、神は預言者や使徒たちを通して語り、私たちがこの問題に関してすべてを知ることができたであろう。しかし聖書がこの点に関して沈黙していることは、最も賢明な意図によって私たちにかくされているという証拠である。

神はご自分の知恵によって、モーセを埋葬した場所をかくされた。神が彼を埋葬し、神が彼を復活させ、天にとりあげられた。この秘密は偶像礼拝を防ぐためであった。モーセがこの世に生きていて活動的な奉仕をしていた時、イスラエルの民は反抗し、またほとんど人間として耐えられぬほどに怒らせたのに、彼が死んで彼らから引き離された後は、神をおがむのとほとんど同じようにモーセを拝した。これと同じ目的から、神はキリストの誕生の正確な日を秘して、この世の救い主としてのキリストに与えられるべき栄光、すなわちみもとに来る者をすべて極限まで救うことのおできになる主として信愛され、信頼されるべきお方であるキリストの栄光を、その誕生日が受けることのないようにされたのである。私たちの魂が崇拝する対象は、無限のお方でいます神の子としてのイエスであるべきである。[1]

その日は無視されてはならない――１２月２５日がキリストの誕生をお祝いするために守られており、また子供たちが教えと模範によってこの日がほんとうに喜び楽しむべき日であると教えられてきたのであるから、あなたがたはこの日をなんら注目せずに過ごしてしまうことはむずかしいことを知る。それは非常によい目的を達成するのに役立たせることができるのである。

青年を取り扱うのは、細心の注意を要する。彼らがクリスマスに無益な遊びにふけったり、娯楽を求めたり、彼らの霊性に害となるような楽しみに夢中になるのを放任してはいけない。両親は子供たちの心とささげ物を神と神のみ事業と人間の魂を扱うこととに向けさせることによってこの問題を統御することができる。

遊びにふけろうとする欲望に対しては押えつけたり独断的にさしずしたりせず、両親の方で忍耐強い努力を続けることによって、監督し指導してやらねばならない。彼らが贈り物をしようとする望みを純粋で神聖な方向に向けてゆき、キリストがこの世においでになった御目的である偉大なみ事業の中へ宝を積んでゆくことによって、私たちの同胞に益となるようなふうにすることができるのである。克己と自己犠牲はキリストの行動を特徴づけた。イエスの中に、永遠の生命を得ようとする私たちの希望が集中させられているのであるから、イエスを愛していると自称する私たちの行動も同じ特徴をそなえるようにしようではないか。[2]

愛情のしるしとしての贈り物の交換――クリスマス休日の時期は贈り物の交換によって始まるのが普通であり、老人も若い人も愛情を持ち続けていることのしるしとして、自分の友人に何を贈ることができるかを一心に研究する。贈り物はどんなささやかな物でも私たちの愛する人たちからもらうのはうれしい。それは私たちが忘れられていないという事の確証であり、彼らに自分を少しでも緊密につないでくれるように思われるものである。‥‥

お互いに愛情をいだき、覚えていることのしるしとして贈り物をおくることは、これによって、私たちの最良の友である神を忘れるのでなければ、正しいことである。私たちは贈り物をするのには、受け取る相手にとってほんとうに役立つものとなるようにしなければならない。私は、神のみことばを理解するのに助けとなるような本や、神のみ教えを愛する私たちの愛を増進するような本を、贈り物とすることをお勧めしたい。冬の夜の長い季節に、読むことのできる何かを用意しなさい。[3]

子供たちに推奨する本――現代の真理に対する書物や出版物を、持っていない人が大勢いる。ここに、おかねを安全に投資できる広い分野がある。適当な読み物を与えてやらねばならない子供たちがたくさんいる。「太陽の光シリーズ」「黄金の麦粒シリーズ」「詩集」「安息日の読み物」等（注――この記事の中には、現在発行されていない出版物のことが言及されている。しかしこの点に関して述べられている原則は、今日も適用できるのであるから、これらの特定な引照もこの記事の中にそのまま残してある。）は、すべて貴重な書物であり、どんな家族が読んでもだいじょうぶである。ふだんにキャンデーや無益なおもちゃに消費された少額のお金も、これを積んでおけばこれらの本を買うことができるのである。・・・・

子供や孫や甥（おい）や姪（めい）たちに有益な贈り物を与えたいと望んでいる人々は、上にあげた子供のための本を手に入れるようにしよう。青年のためには「ジョセフ・ベーツの生涯」が珍重すべき本であり、また「預言のみたま」３巻（註――Ｅ・Ｇ・ホワイト夫人の現在ある「各時代の争闘シリーズ」に先だって出版された本）もよい。これらの書物は、国中のあらゆる家族が持つべきものである。神は天国から光をお与えになった。そしてどんな家族も、その光をうけずにおいてはならないのである。あなたがたが人におくる贈り物は、天国へ行く道に光を照らしてくれるような種類のものにしなさい。[4]

イエスを忘れてはならない――兄弟姉妹がたよ、あなたがお互いに贈り物をおくろうと考える一方では、天にいます友人すなわちイエスのことを覚え、あなたがそのみ事業を忘れることのないようにと言いたい。私たちが主を忘れてしまったとしたら、主はお喜びにならないのではなかろうか。生命の君でいますイエスは、私たちの手の届くところへ救いをもたらすためにご自分のすべてをお与えになった。‥‥主は死にいたるまで苦しまれたが、それは私たちに永遠の生命を与えるためであった。

私たちがあらゆる祝福をうけるのは、キリストを通してうけるのである。‥‥天国にいます私たちの大恩人キリストは、私たちの喜びと愛のしるしのわけ前をお受けとりになるのが当然ではないだろうか。兄弟姉妹がたよ、子供たちといっしょに来なさい。あなたのだいている赤ん坊もいっしょに連れて、自分の能力に応じて神にささげ物をもってきなさい。心の中で神に賛美の歌をうたいほめたたえることばを口にしなさい。[5]

クリスマスは神をほめたたえる時である――この世の中ではそうぞうしさと浪費と暴飲暴食と見せびらかしとで休日が過ごされる。‥‥数千ドルの大金が、きたるべきクリスマスと正月に、無益な欲望の満足のために浪費される。しかし、この堕落した時代の慣習やしきたりから離れることが、私たちの特権である。そして単に食欲を満足させることや、必要もない飾りや衣類のために金銭をつかう代わりに、きたるべき休日を神をほめたたえる機会とすることができるのである。[6]

キリストが最上の対象でなければならない。しかしキリストが私たちの世界においでにならねばならなかったのは、この人間の罪深い欠点の多い品性によるのであったのに、クリスマスを過ごす時には、栄光はキリストから転ぜられて、この死滅すべき人間に向けられるのである。

天国の主権者、天国の王であるイエスは、ご自分の王位を離れ、栄光の王座と高貴な支配権をお捨てになってこの世においでになった。それは堕落した人類、道徳的な力が弱くなり、罪によって汚れた人類に神聖な助けを与えるためであった。‥‥

両親はこれらの事実を自分の子供たちに示し、教訓に教訓を加えて神に対する彼らの義務を教えてゆかねばならない。それはお互いに対する義務ではなく、贈り物やささげ物によって他人をほめたたえるものであってはならない。[7]

子供たちの考えを新しい道筋の方へ向けさせなさい――度々子供たちや親類縁者におくられている不必要な贈り物よりも、ずっと費用がかからなくて趣味のよい品物を、いろいろ用意することができる。そしてこれによって家庭の中に礼儀正しさを示し、幸福をもたらすことができる。

あなたは子供たちに、与える贈り物の価値を変えた理由を説明する際に、これまでは、神の栄光よりは子供たちの快楽をより重要なことであると考えていたことを話して、１つの教訓を教えることができる。あなたは贈り物を必要としない人々に贈り物をおくることによって、神のみ事業をすすめてゆくよりは、自分自身の楽しみと彼らの満足と世の中の慣例や言い伝えに従ってゆくことが、より重大であると考えていたことを子供たちに話しなさい。古代の賢人たちと同じように、あなたは神に自己のもつ最上の贈り物をささげ、あなたがこの罪深い世界に神が与えてくださった贈り物（すなわちイエス）を十分評価していることを、自分のささげ物によってあらわしなさい。神がそのひとり子イエスをお与えくださったことに対して、神に子供たちがささげ物をするように激励してやることによって、子供たちの考えを新しい利己的でない道へ向けてやるようにしなさい。[8]

「私たちはクリスマス・ツリーをたてるべきか」――もしクリスマスに各教会がクリスマス・ツリーをたてて、それにこれらの礼拝の家のために大きいのや小さいのや種々のささげ物をつるすならば、神はお喜びになるだろう。（註――この記事は教会建築の計画に関して言及しているのである。この点においては今日もその原則は適用し得るのであるから、この特定の引照は本文の中にそのままのこした。）私たちのところへ次のような質問の手紙がたくさんきた。

「私たちもクリスマス・ツリーをたてるべきか。それでは世の中と同じではないか。」私たちはこう答えている。すなわちあなたがたは世の中の人々と同じ態度をとるならば、それはこの世と同じようになる。あるいは世の中のやり方とできるだけちがったものにもできる。よい香りのするときわ木を選んでそれを教会の中へおくことは別に罪ではない。

しかし、罪があるとすれば、そうする動機と、木のところにおく贈り物のもちい方にあるのである。

木はその場合に最も似つかわしいように、なるべくたけが高くて枝がひろがったものでもよい。しかしその大きな枝には、あなたの慈善のための金や銀の実をのせ、これをあなたのクリスマスの贈り物として神にささげなさい。あなたの寄贈品は祈りによってきよめなさい。[9]

クリスマスと正月のお祝いは、困っている人々を助けるために行いなさい。扶養しなければならぬ大家族をもっている人々を助けるために私たちが与えるならば、それによって神が栄光をうけられるのである。[10]

ささげ物をつるした木は罪に汚れたものではない――安息日学校の生徒を楽しませるために、教会にときわ木がおいてあるのは罪であるという立場を両親はとらないようにしなさい。なぜなら、それは大きな祝福となるからである。彼らの心の前に慈善的な目的を示すようにしよう。どんな場合にもこれらの集会の目的が単なる遊びであってはならない。これらの機会を不注意で軽薄な気持ちで過ごし、神聖な感銘を心に刻みつけられない人もいるかもしれないが、他の人々の心や品性にとっては、このような時期はきわめて有益となるのである。多くの堕落させるような集会の代わりに、汚れのない集会が工夫されているのを見て、私は大いに満足している。[11]

その日のために汚れのない楽しみを用意しなさい――クリスチャンである兄弟姉妹がたよ、立ちあがって神を恐れる人としての本分のために帯をしめ、この問題を無味乾燥で興味のないものではなく、天国の印をおすような汚れのない楽しみに満ちたものにするように努めようではないか。私は、貧しい階級の人のほうがこのような提案にこたえてくれることを知っている。

最も富んでいる人々もまた関心を示し、神が彼らに委託された財産に応じた贈り物とささげ物を提供するようにすべきである。神の御働きをささえ、神の王国を建設するために寄贈品が与えられたという理由で、天の書にこれまで見られなかったようなクリスマスの記録をしるしてもらうようにしよう。[12]